

「総ぐるみ」新聞

NPO総ぐるみ福祉の会、設立五周年記念式典および記念イベント

上山氏、田村氏出演のジャズコンサート、盛況裡に終了

去る十月二十七日（土）に、西洗・港南プラザ自治会館で記念式典とイベントを開催。当日は朝から無情の雨降り、しかも台風が近づきつつあるという最悪のお天気模様でしたが、大勢の方が足を運んでくださいました。

●記念式典

会場の一階ホールには、大橋綾子さんご寄贈の立派な盛花が雰囲気盛り上げ、今回はワンドリンク付きチケットを販売したため、お茶やビール・お菓子を手にされたお客様は、和やかに談笑されていました。

一時半過ぎから記念式典が始まり、まず宮崎浩子理事長が「この地にNPOを立ち上げたものの、いつ解散になるかとびくびくしながら頑張ってきました。でも、五年も続けることが出来ましたし、地域にNPOという言葉が受け入れられるようになり、これも皆様のお蔭です。次の五年も頑張り、少しでも皆様のお役に立てればと思っています」と挨拶しました。

続いて、来賓のいぶき会会長の草間弘司氏が「故増澤さんの『ここが終の棲家だし、お互いに助け合える何かの会を作ろう』という呼び掛けから「福祉問題研究会」や「おしゃべりとお茶飲み会」が発足し、年寄りには誰か

が面倒をみなければということで「NPO総ぐるみ福祉の会」が創設されたのです。

私は、NPOの協議段階で離れてしまいましたが、介護保険によるケアが主目的の当NPOの場合、事業所の設置、資金調達、人材確保等、ボランティア精神だけではこれから難しい局面にぶつかるとも知れません。この五周年が、十周年、二十周年と継続されるよう、理事長をはじめスタッフの皆さんのご健闘をお祈りします」と述べられました。

●ジャズコンサート

二時から、お待ちかねの上山高史氏、田村博氏が登場。懐かしの映画主題歌を中心としたジャズコンサートが始まりました。

第一部は、まず田村氏のジャズピアノ演奏、つづいて上山氏が、よく知られているマイブルー・ヘブン、続いて「グリーンミラー物語」のムーンライトセレナーデ、「昼下がりの情事」のフアステイネーション、他六曲を、映画や曲の説明を加えたり、軽妙なトークを交えたりしながら歌ってくださいました。

十分ほどの休憩を挟んで第二部が始まり、「慕情」の主題歌を田村氏がピアノ演奏の後、大リーグ中継によく耳にするテイクミーアウト トウザ ベースボール、「愚かなりわ

NPO総ぐるみ福祉の会事務所は日限山4・44・23（八四四一七四七七）
入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山4・7・1



が心」のマイフーリッツシュハート、「虹の都」のテンプテーション、他八曲を上山氏が歌われ、最後はラジオドラマ主題歌「鐘の鳴る丘」を出席者全員で歌って終了しました。

●五周年記念誌の刊行

五周年を記念して記念誌刊行を企画し、原稿の執筆をお願いしたところ、地域の方々、正会員や利用会員の方々、ヘルパーやサポーターの方々など五十三名という多数の方がご寄稿くださり、「五年間の歩み」「年表」を加えて四十八ページの立派な冊子が完成しました。この冊子は、ジャズコンサートに来場者にも配布いたしました。

第六回座談会

新見 宏氏の「四国八十八カ所遍路の旅」を開催

去る十一月九日（金）午後、交流事業としての表記の第六回座談会が、二十名の参加者を得て日限山荘で行われました。

新見氏は、自由の身となった三年前から準備を始め、去年にかけて五回に分けて歩かれました。地図・写真等の資料を配布して話された興味深いお話を紹介します。

● 遍路の旅を決意したいきさつ

新見氏の奥様は、高校の英語の先生をしていらつしやいましたが、血液の難病によって六十歳で逝去されました。奥様の七回忌を迎えるご供養のために、四国八十八カ所遍路の旅を決意されました。

● 事前調査

参考図書として、へんろみち保存協力会編『四国遍路一人歩き同好二人』他を入手したり、インターネットでお遍路の情報を得たりして準備を始めました。

四国八十八カ所のお寺は、弘法大師や役の行者が開基したものの、また天皇が作られた国分寺などがあります。いずれも本堂の他に大師堂が付設されていて、真言宗が殆どです。しかし、ルート上には、番外札所というお寺が二十カ所あり、合計百八カ所となって除夜の鐘と同数になります。

● 歩く準備

遍路道で歩く総距離は千四百kmで、東京から九州までの距離に相当します。一日約六時間歩くとして、平均距離は二十五kmほ

ど。国道一号線の戸塚・横浜間約十四km他を繰り返して歩いて、自信を得ました。

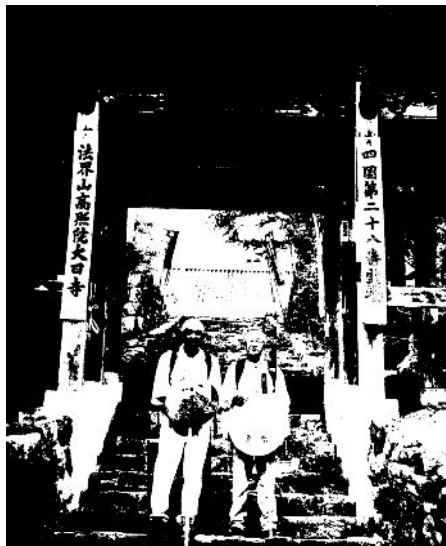
● 遍路の服装と持ち物

宿は安宿でよいのですが、靴と下着にはお金をかけました。山道、峠越えも多いので、足首を締めて固定できるトレッキングシューズを、注文して作り直しました。また下着は、吸汗・速乾性素材のものが最良です。

遍路の服装に決まりはないものの、菅笠、同行二人（お大師さんと同行の意味）と背文字の入った白衣、輪袈裟、金剛杖などが最低限必要となり、携帯品を含めて一式三万五千元ほどで、一番寺近辺で入手できます。地図、防寒着、雨具（二部式のもの）、小型懐中電灯（トンネル内で使用）、一、二、三日の着替えて、荷物は約十kgとなりました。

● 遍路の一日

朝食は六時半、七時過ぎに歩き始め、宿へは早めの到着を心がけます。夕食は六時、



右は新見氏、左は同宿の人

それまでに下着・靴下の洗濯や入浴を済ませます。また各寺では、住所氏名を書いた納め札を納札箱に入れ、本堂と大師堂に参拝して読経、御朱印（一個二百円）をもらう等に約一時間かかります。

遍路中には、飲食などさまざまな形のお接待を数多く受けました。いずれも、自分に代わって参ってほしいという気持からでありがたく受けました。

● 五回の歩き遍路

どの寺から回るといふことはなく、ルートはずさずに歩くのが決まりです。

一回目：徳島県の一番霊山寺から二十三番の薬王寺、番外札所の鯖大師本坊まで。

二回目：高知県に入って三十六番の青龍寺まで。途中室戸岬までの間には人家の全くない所がありました。

三回目：三十六番から愛媛県の宇和島まで。四回目：宇和島から五十五番の南光坊まで。

五回目：途中の六十番横峰寺への山道は、「遍路転ばし」と呼ばれる遍路道最大の難所

で、大雨で山崩れを起こした箇所もあって難渋しました。最後の香川県に入ってから、八十八番の大窪寺で遍路を終了。報告のために、昔弁慶と義経が越えた大坂峠を逆にたどって一番の霊山寺に。さらに、徳島まで電車に乗り、フェリーで和歌山に渡り、最後の高野山に参詣して八十八カ所遍路の旅は完了。約五十日かかりました。

そば打ちのお知らせ

日時：十二月十四日（金）

藤井氏が友人の尾形氏と共に、新そばを打ちます。皆様のおいでをお待ちしています。